

尾道 夜の魅力

2020年東京オリンピックの開催が決定し、各都市において「観光」というキーワードが最も重要な行政的な視点のひとつとなりつつあります。

これからの尾道市は、国内外からの観光客誘致のため、特に宿泊していただく“滞在型”の観光にも力を入れていく予定です。そのためには、夜も人々を惹きつける魅力づくりが必要です。

そこで、尾道市夜間景観基本構想を作成し、尾道市の夜間における景観照明を考える上で、より効果的かつ効率的な整備を進めています。

☎観光課(☎0848-38-9184)

尾道の夜間景観を
プロデュースしていただきました



Motoko Ishii

世界的照明デザイナー
石井幹子さん

夜間景観を考える際は、そのまちらしい個性・良いところを活かしてデザインを行います。

“尾道らしさ”ってなんだろうと考えたときに「石段と坂道だ」とピンとききました。現状の昼景観をほぼ変えずに照らし出す手法として、手摺りライン照明を採用しました。さらに尾道にしかない特別な夜間景観を創出するために、ほんのり淡い光色を各石段の端部にアクセントカラーとして添えて、その特色を押し出すデザインとしています。

石井幹子 照明デザイナー

都市照明から建築照明、ライトパフォーマンスまで幅広い光の領域を開拓する照明デザイナー。

日本のみならず海外でも活躍。主な作品は、東京タワー、レインボーブリッジ、東京ゲートブリッジ、函館市や倉敷市の景観照明、白川郷合掌集落、創エネ・あかりパーク、歌舞伎座ライトアップほか。

2000年、紫綬褒章を受章。東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問。

「尾道らしさを感じられる夜の魅力づくりに期待」



この基本構想は、世界的照明デザイナーの石井幹子先生が代表である石井幹子デザイン事務所に策定していただき、それに基づいて、まず初年度は、天寧寺の塔婆、持光寺石門・石段、宝土寺山門・石段を整備しました。

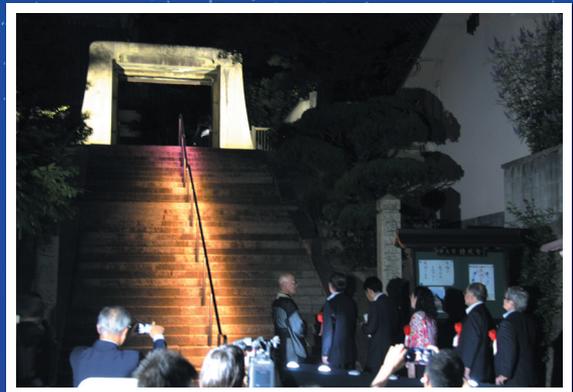
今後、歴史・文化・自然景観を活かした尾道らしい夜の魅力づくりを図り、地域経済の活性化に繋げていきたいと考えております。

持光寺

石のまち“尾道”にふさわしい堂々たる構えの石の門が特徴的。国宝「絹本著色普賢延命像」があります。別名「あじさい寺」とも呼ばれ、梅雨の時期には、境内にあるあじさいが色づき、目を楽しませてくれます。

アクセントカラーとして、石段の下端には、尾道水道をイメージした青系の光色、上端には、あじさい寺を特徴づける光色とし赤紫(マゼンダ)としています。

日没～22時まで点灯
西土堂町9-2 ☎0848-23-2411



▲7月20日の点灯式の様子



▼未来性

最先端の光源や照明技術を駆使し、石段を美しく見せかつ、十分な明るさによって安全・安心の場となるような、今までにない石段のための照明を行う。

「尾道らしさを感じられる

夜の魅力づくりに期待」

尾道市長 平谷祐宏

昨年、今年と全国で唯一、2年連続で日本遺産の認定を受け、また、しまなみ海道は、サイクリングの聖地として世界から注目を集めており、今後も国内外から観光客の増加が見込まれます。

こうした追い風の中、尾道の夜間景観のさらなるイメージアップにより、夜のにぎわい創出、国際ブランド力を強化し、国内外からの観光誘客と宿泊滞在型観光の推進を目指し、尾道市夜間景観基本構想を策定いたしました。

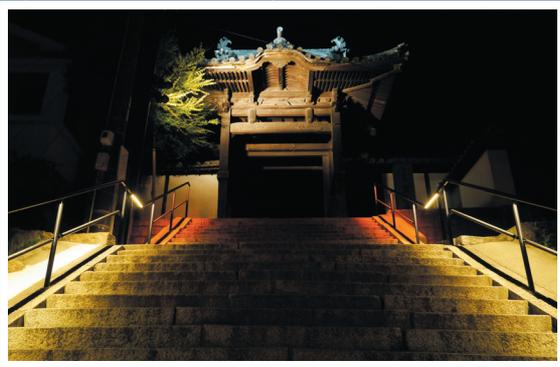
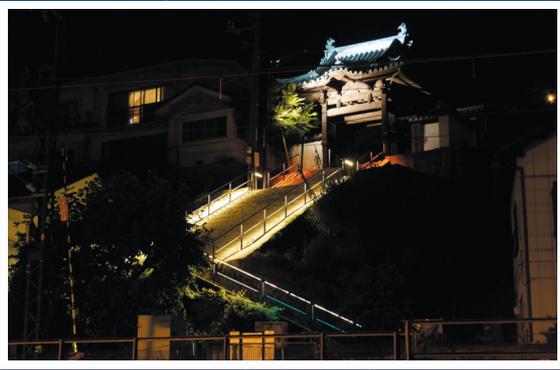
宝土寺

堂前には、開山人融海の墓と伝わる古い五輪塔があります。また西の坊の墓地には、江戸時代に御所崎の沖に突出していた「浮御堂」の最後の住職・義順の墓があります。

その他、お寺の窯「無尽窯」も作られています。

アクセントカラーとして、石段の下端には、尾道水道をイメージした青系の光色、上端には、ベッチャー祭が開催される石段として朱(オレンジがかった赤)としています。

日没～22時まで点灯
東土堂町10-3 ☎0848-22-4085



天寧寺

境内山手には嘉慶2年に建立された国重文の塔婆(海雲塔)があります。現在は三重塔ですが、建築当時は五重塔であったと伝えられています。

このお寺の見どころである五百羅漢は全部で526体あり、春には“しだれ桜”や“牡丹”が咲き誇る「花の寺」としても知られています。

塔の下部は大地のエネルギーを表す暖かみのある温白色、そこから塔の上部へ向かって天空の先の宇宙をイメージした冷白色へ、光のグラデーションで照らし出しています。大地から天空へ、平和への祈りが昇華していく様を光によって表現しています。

日没～22時まで点灯
東土堂町17-29 ☎0848-22-2078



写真:照明デザイン:株式会社 石井幹子デザイン事務所

景観照明の デザインコンセプト

平成26年度に実施された尾道市夜間景観基本構想における、現地調査および諸検討の結果、尾道市夜間景観照明の整備対象第一弾として、持光寺および宝土寺の石段が選定されました。

これは、尾道独特の個性を表現できる景観であり、形態として照明効果が高く、最初の整備として適切な規模である、といった条件が揃ったアイテムです。

▼景観性

尾道ならではの地形・風土の象徴的な存在である石段の、平面的な拡がりと同時に立体的に見えてくる等の、景観上の特長を十分に活かした夜間景観を創出する。

▼歴史・文化性

山麓の寺社から尾道水道へと向かう幾筋もの参道の石段の、尾道ならではの歴史と文化の重層が創り出した独特の雰囲気、街の個性として醸成するような照明とする。

▼普遍性

夜間景観のみならず、昼間の見え方にも配慮した照明デザインとし、子どもからお年寄りまで、広く人々に親しまれる夜間景観を創り出す。また、環境への優しさや省エネルギーにも十分配慮した照明とする。